

神戸市シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス)

コース 専攻	ECO ライフ	学年	2 年
講義日	令和 7年 5月15日 (木)		
テーマ	(自然共生) 神戸の絶滅危惧種とその保全		
講師	里地・里山の保全推進協議会 事務局 大嶋 範行		
講義内容			
<p>神戸市には約 8,000 種の動植物 (哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水産魚類、昆虫類、淡水・汽水産甲殻類、陸産・水棲貝類及び維管束植物) が暮らしています。これは 150 万人が住む大都市としては、非常に高い数値となっており、それは海あり山ありの多種多様な自然環境に恵まれた神戸ならではの特徴と言えます。</p> <p>しかし、この 8,000 種のうちの実に 12%にあたる 932 種は絶滅が危惧される生きものとして、「神戸版レッドデータ 2020」に記載されました。このレッドデータは、2 度目の改訂が行われ、2021 年 3 月に公表されたもので、前回と比較すると 61 種が新たに追加され、70 種がランクアップしています。</p> <p>環境省の調査によれば、里地・里山は日本の国土の約 4 割を占め、この里地・里山に我が国の絶滅の恐れがある生きもののほぼ半数が暮らしているとされています。</p> <p>今回の講義では、生物多様性が高いとされている里地と里山が接する場所に立地する棚田とその周辺に見られる動植物を中心に話を進めます。今、市内の棚田では耕作放棄地が急速に増加しており、生物多様性の低下が懸念されているところです。</p>			
<p>①里地・里山とは</p> <p>②里地・里山は動植物の宝庫</p> <p>③里地・里山のホットスポットは棚田</p> <p>④消えゆく里地・里山の動植物</p> <p>⑤里地・里山での保全活動</p> <p>⑥今後私たちにできること</p>			
講師からのメッセージ			
<p>里地・里山の豊かな自然を守るために、シルバー世代が中心となって活動を展開しながら、その成果を若い世代に継承していくような仕組みづくりが望まれます。また、生きものの減少は絶滅危惧種に止まらず、普通種にも及びつつあることを知ってもらいたいと思います。</p>			